

2017年(平成29年)

11月15日

水曜日

七五三

新潟日報

新 潟

(日刊)

第3種郵便物認可

円盤状360度むらなく

全天球カメラ用に照明

ルクス・エナジー(新潟)

LED(発光ダイオード)照明開発・製造のルクス・エナジー(新潟市中央区)は、上下左右360度の写真や動画が撮影できる全天球カメラ向けの照明を発売した。企業や個人に全天球カメラが普及するにつれ、暗くても十分に撮影できる照明のニーズが高まっており、今後拡大が見込まれる市場でのシェア獲得を目指す。

こうした状況を知ったルクス社は、2015年ごろから開発に着手した。

新製品「スマイルラウンド360(サブロー)」(税別2万9800円)は円盤状で、外周部分に配置された40個のLEDが上下左右をむらなく照らす。リモコンを使って3段階の明るさが調節でき、2時間フル充電した場合、一番明るい3段階で約1時間半の連続点灯能力がある。

には、明るさが徐々に落ちる製品もあるが、ルクス社の製品はバッテリーが切れる直前まで設定された明るさを保つ。色表示でバッテリー残量の確認もできる。上面はカメラに、下面は三脚などに接続できるように、ねじやねじ穴が設けられ、手軽に固定して使える。

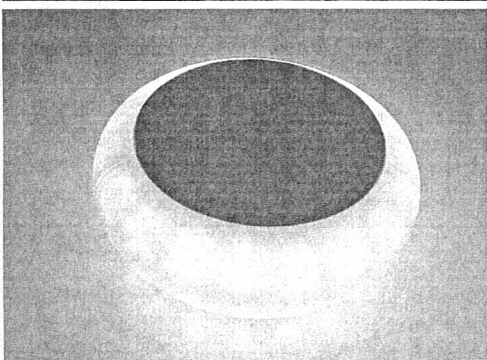
既にカメラメーカーや大手のスーパーゼネコンなどから引き合いがあり、発売から半年で千個、軌道に乗せた後は月500個の販売を目指す。これにより、数年以内に同社の売上高を2倍に高めたい考えた。渡辺和社社長は「全天球カメラ用の照明は新たな市場であり、国内外に販路を広げた」としている。

建設業需要見込む

全天球カメラは、リコーが2013年に発売。建設業者が建物の屋根裏や床板で配線やコンクリートの亀裂状況を確認したり、不動産業者が物件を紹介したりする際に活用されているほか、個人ユーザーも増えている。

暗い場所では、板状のLED照明を4方向に取り付けた製品などが使われているが、かさばったり光の届かない部分が多かったりと、

使い勝手の面でユーザーの不満の種になっていた。こ



ルクス・エナジーが発売した全天球カメラ用照明。カメラと三脚の間に照明を装着した使い方の例